



新型コロナウイルスの影響で途中中止となつたため発行を中止した「えーる！」里山オープンガーデン特集号を収録しました。

次回の開催では最後まで鹿野の皆さんのが育てた花が楽しめる日が来ることを祈りつつ、ご覧いただければ幸いです。

2021

えーる！

形を変えて咲く 千の花火

指定された場所に車を停めて、まずは腹ごしらえからです。今年はテントでフランクフルトや肉まん、豚汁や温かい飲み物などが販売されました。日が落ちて寒い中、車に持ち帰って、大きく切った具材をしつかり煮込んだ豚汁を食べたのですが、そのおいしさは格別でした。温かいものを口にすると、ほつと一息つけるなあと思いました。

おかげ一杯になって、暖房のきいた車内で映画を楽しんだ後、いよいよ花火の時間です。例年ならレーザー光線やスマートが舞い、音楽と共に花火が打ち上りますが、今年はどうなるのだろうと思つ

28回目となる「銀嶺の舞」。例年なら鹿野総合体育館周辺でステージイベントや多くの屋台でございますが、今年は鹿野小中学校のグラウンドで、車内で映画を楽しむドライブインシアター形式で行われました。

空いっぱいに約1000発の花火が上がり始めました。レーザー光線の代わりにスクリーンを使つた映像が流れ、そこには格別でした。温かいもの

を口にすると、ほつと一息つけるなあと思いました。

こうして形が変わつてもイベントを楽しむことができたのは、実行委員会の皆さんや、寒い中誘導や販売をしていた皆さんのおかげだと思います。今までとは形を変えた「銀嶺の舞」ですが、皆さんの力があつたからこそ、思ひ出に残る素敵なイベントになつたのだと思います。来年の「銀嶺の舞」も楽しみですね。

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、装いも新たに鹿野の情報をお届けします。今年最初の「えーる！」は、いつもと少し違う形で開催された、かの冬花火「銀嶺の舞」についてご紹介します。

スクリーンに映る映画と大輪の花火



祈願祭と 地域の宝物

12

月13日に、渋川の宝作神社で宝くじ当選祈願祭が行われました。この神社で祈願された宝くじが当選したことをきっかけに、渋川宝くじ当選奉賛会の皆さんによって、平成18年から祈願祭が開催されるようになりました。

約30人が集まつて、祈願祭が行われた後、地元の皆さんがあつたぜんざいが振る舞われました。炭火でじっくり焼かれた餅の入つたぜんざいを焚き火のそばで口にすると、寒い中ながら、体の奥から温かくなつきました。

祈願祭と共に振る舞われるぜんざいの甘さや、焚き火を囲んで顔見知りと言葉を交わす時間……祈願祭 자체はもちろんですが、こうした振る舞いもずっと続いていいと感いました。温かい接待をしてくれる地域の人もまた「宝」なのだと感じました。



展示の第一印象は「これ、本当にボールペンなの?」でした。12月27日まで子たぬきギャラリーで開催されていた、モノクロ画家マエサキマユさんの「不思議の国のクリスマス展」の作品たちは、なんとボールペンで描かれたもの。

しかし、近づいて目を凝らしても、ボールペンで描かれたとは思えないほど纖細で美しい作品ばかり。額に入った小さな絵や、下の写真のようなオーナメントなど、さまざまな作品を楽しむことができました。

マエサキさんの作品テーマは、子どもたちの見ている日常に潜むファンタジーなのだと。4人の子どもを持つお母さんならではの作品ですね。

ギャラリーにはたくさん的人が訪れ、作品が鹿野と人とをつないでくれていると感じました。次はどんな展示を見ることができるのか、とてもわくわくしてきます。



ボールペンの描く 「ファンタジー」



声の活動は “素の自分”でいられる場所



「ナレーター活動は、まさに一からスタートでした。機材のことも分からず、まさに手探りで活動を続けてきました。くじけそうな時もありました。が、活動を続けることができたのは、やっぱり声の活動が好きだからだと思います」

そんな瀬来さんのモットーの一つが「継続は居場所なり」。どんな意味かと聞いてみると、「苦手なことは敬遠してしまいがちですが、それから逃げず

山口に帰った後も声に関する仕事をしたいという思いを持ち続けていた瀬来さんは、約8年前から、有志と共に、インターネット上でCMのナレーションなどを音声作品を作り始めました。

「声優になるという夢をかなえるため、大学時代には、声優の養成所にも通っていましたが、大学を卒業して結婚を機に山口に戻った時、いつたん声の仕事を断念した時期がありました」

「声優になるという夢をかなえるため、大学時代には、声優の養成所にも通っていましたが、大学を卒業して結婚を機に山口に戻った時、いつたん声の仕事を断念した時期がありました」

に一つの活動を続けると、たくさんのご縁ができます。私は他県の人と一緒に、声に関するサークル活動を続けていますが、長く続けてきたその活動が、自分の居場所を作ってくれていると実感しています」と話してくれました。

瀬来さんは、アニメなどのサブカルチャーの力で周南市を盛り上げるイベント「萌えサミット」の公式キャラクターの一人の声を担当したり、ラジオでパーソナリティを務め

「私がどつて声の活動とは、主婦業のかたわら、声の活動を続ける瀬来さん。最後に、あなたにどつて声の活動とはどういうものですか? と聞くと、瀬来さんは笑顔でこう話してくれました。

「私にどつて声の活動とは、主婦業や母親業に追われる慌ただしい毎日の中、素の自分に立ち帰ることができ時間です。私にどつて、言葉は大切なコミュニケーションツールの一つなんですよ」



瀬来さんはホームページから、ナレーションから受験生への応援ボイスなど、さまざまな声の仕事を請け負っています。もし、何か「声のお仕事」が必要な時は、瀬来さんのことを思い出してくださいね。

＼瀬来さんの声はここから／

MIO SERAI OFFICIAL SHOP

検索





思い出の場所は漢陽寺



瀬来さんに、子どもの頃を過ごした鹿野の思い出を聞いてみました。

印象に残っているのは、中学の3年間、茶道の稽古で通っていた漢陽寺ですね。礼儀作法が学べるかなあと、友達と一緒に始めました。厳しささえ感じるような、稽古中の空気感を思い出します。茶道のおかげで、今でも姿勢に気を付ける習慣が身に付きました」

そう語る瀬来さんに、漢陽寺の素敵な場所を聞いてみると、本堂前に広がる曲水の庭を挙げてくださいました。特に素敵なのは秋。庭の様子と、周囲を囲む紅葉の様子が、とてもきれいで素敵だったそうですよ。

瀬来さんに、子どもの頃を過ごした鹿野の思い出を聞いてみました。

印象に残っているのは、中学の3年間、茶道の稽古で通っていた漢陽寺ですね。礼儀作法が学べるかなあと、友達と一緒に始めました。厳しささえ感じるような、稽古中の空気感を思い出します。茶道のおかげで、今でも姿勢に気を付ける習慣が身に付きました」

そう語る瀬来さんに、漢陽寺の素敵な場所を聞いてみると、本堂前に広がる曲水の庭を挙げてくださいました。特に素敵なのは秋。庭の様子と、周囲を囲む紅葉の様子が、とてもきれいで素敵だったそうですよ。



「あの人にも届けて」
つながるきもち。

一月からかなりの大雪が続きましたが、晴れた日はついぶん暖かくなってきて、春が近づいていることを感じますね。

今月号の「えーる!」は、異世代交流子育てサロンasisさんが運営する、ふらっと食堂の活動をご紹介します。

以前の取材の時は、コアプラザかでの豚丼をテイクアウト配布していたasisさん。今回は、ふる里マルシェかの横のログハウスを利用して保存食の配布会を行いました。

1月に続き行われたこの配布会では、たくさん的人が保存食をもらっていました。テイクアウトだけでなく、食品の配布もasisさんの活動の一つなんですよ。



くださいね

新型コロナウイルスの流行に加え、1月からの大雪の影響で外出が難しく、会場に来ることができない人たちのことも思いながら、この配布会は行われていたんですよ。

たくさんの来場者から「あそこの人が困っちゃるみたいじやけえ、持つて行っちゃげようかねえ」と、自然に助け合う言葉が聞こえました。

自分自身のことだけで精一杯になってしまいそうな毎日。そんな中でも、他人を思いやる言葉を聞くことができて、なんだか心が温くなるような気がしました。

よく晴れた中、実施された配布会では、何度もある言葉が繰り返されていました。「近くに、なかなか外に出られなくて困っている人がいたら、その人にも持つていってあげて

テイクアウトを行います		日時
		4月4日(日) 11時~13時30分
asisさんは、4月にテイクアウトで豚丼配布と食品の配布会を行う予定です。	場所	コアプラザかの
時間が合う人は、ぜひ立ち寄ってくださいね。	内容	ふらっと食堂の豚丼テイクアウト



石の中へ汗びつしより
石風呂の歴史に迫る

国道3-15号線の道沿いに見えた石組みの施設。これはどうやら風呂らしいと聞き、実際に利用していたという人に話をうかがつてみました。

利用していたのは60年
以上前で、内部を火で暖
めて灰をかき出した後、
熱くなつた床面に草など
を敷いて横になつていた
そうです。

と似たような仕組みなのかなと思いました。中に入るのは危険だったので、せめてのぞき込んで撮影しようと思つたのですが、腹這いでやつと中を覗くことができました。横になる時にも、腹這いで入つていたのでしようか。なかなか大変そうですね。

この風呂は皆で使つていたという話で、地域の人もよく立ち寄つていたのだと。この石風呂は、地域の憩いの場だったのかもしれませんね。



今回取り上げた石風呂は、蒸気浴、もしくは熱気浴と呼ばれる仕組みのようです。

かつては「風呂」というと蒸気浴・熱気浴を指していて、その起源は奈良時代にまでさかのぼることができる、とした文献も存在しています。石風呂は日本人にとって、はあるか昔から存在する、なじみ深い施設だったのだろうと考えられます。

現代の施設でいうと、サウナや岩盤浴が石風呂の仲間になるでしょうね。

里山に集う想い



鹿野の町並みに雑木を植え、ベンチを設置して木漏れ日の下で憩える空間を作る「木漏れ日計画」など、鹿野を訪れる人たちを増やそうとさまざまな企画を行っています。鹿野の風プロジェクトさん。その企画の一つとして、令和2年から実施されている「里山オープンガーデン」が、今年も開催されます。

参加者の皆さんのが造つた庭を訪れた人たちに見てもらい、楽しんでもらいたい……そんな思いで行われるこの企画。バラなど華美な花を使ったものが多いうちのオープンガーデンですが、この企画に参加する庭は、山野草など自然の草木を取り入れ、よりナチュラルな庭に仕上げたいという思いで行われます。

3月7日には、約30人の関係者がコア・プラザかのに集まり、会議が行われました。農業を営む人たちや、取材した異世代交流子育てサロン「as is」のお2人など、庭の主催者以外にもたくさんの人々が集まって話が進みました。

野のお米の良さを知つてもらうための、お米の無料配布や、ミニコンサートの実施など、さまざまなおイベントについて意見が交わされました。その他にも、運営についての質問が交わされるなど、実施に向けての皆さんの意気込みを感じることができました。まちづくり応援団えーるでも、全ての庭を回り、その様子をお届けしていきたいと考

えています。

会場にたなびく黄色い旗を目印に、「鹿野の風」を感じながら庭を歩いてみませんか？



四季折々の顔がある

見 / 岩と樹と水が彩る末田ガーデン

今回、里山オープンガーデンに参加される、渋川にお住まいの末田さんは、今年で82歳になります。昔、造園会社に勤務していた経験を生かして、自宅周辺を切り拓き、素敵な庭を造られました。

元々は草ぼうぼうだったそですが、今では岩と樹木が組み合わさった、とても素敵な庭に変身しています。

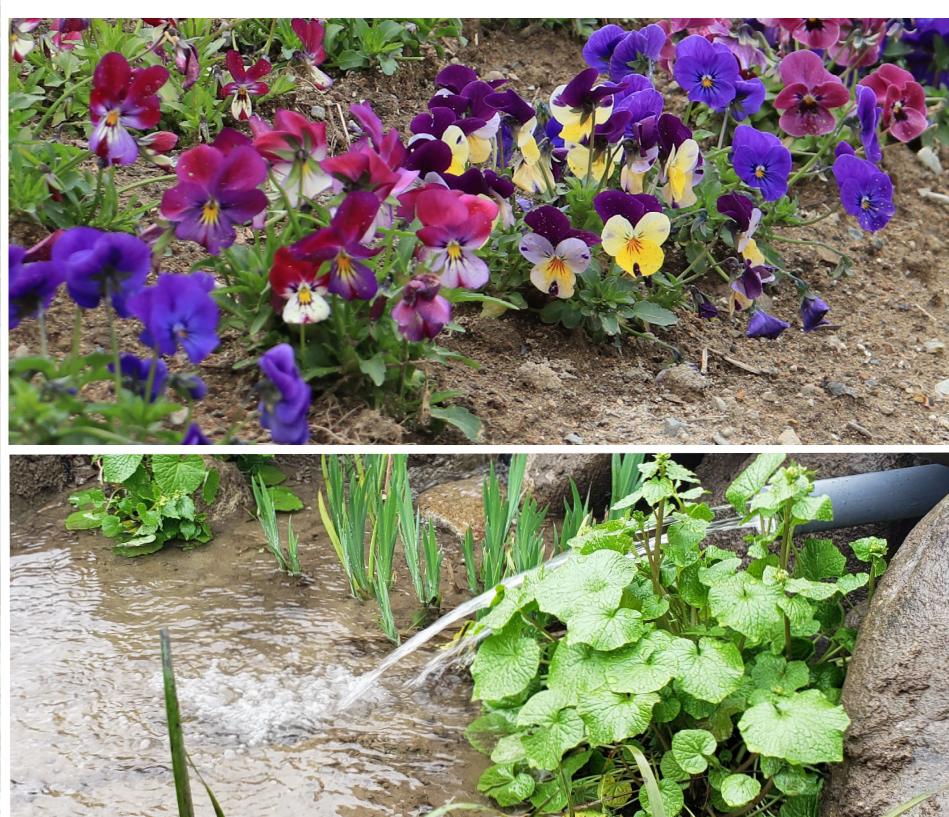
この庭の魅力は、春にはサクラ、夏にはアジサイ、秋はモミジ、そして冬には雪景色と、四季折々の顔を見せてく

れることなのだと。

「朝から晩まで庭を造り続けたこともあります」と語る末田さんの造りあげた庭は、休憩所や池が造られ、それは、岩や木々の存在感を存分に味わえる庭ですね。

花もこれから芽吹くそうで、期間中はたくさんの花を見ることができそうです。

手作りの門をくぐった先に広がる岩と樹木、そして花の作り出す世界を、ぜひ楽しんでみてくださいね。



里山オープンガーデン

実施期間 5月31日（月）まで

開放時間 10時～16時

※庭園の開放日・時間帯は庭主によって異なります。

国道315号線沿いの旧「しゃくなげ」の位置にあるふる里マルシェかの（☎0834-51-0091）さんが、当イベントの案内所になっています。



えーる!

2021.5.6.18

桜咲く4月、風吹く5月。

No. 26 「金峰の里」

防長の吉野をつくる会の皆さんによって、25年間、3500本もの桜が植樹されて造られた「金峰の里」の桜たちは、一ヵ所に留まらず金峰地区のあちこちに咲き乱れていて、金峰を文字通り「桜の里」にしていきます。

「鹿野興産の桜丘」には、鹿野興産の碎石跡地に、桜を始め一万本以上の木々が植えられています。丘一面に咲いた桜の様子に、思わず「すごい」とつぶやきが漏れました。見上げると広がる桜の丘は、とても素敵な景色でしたよ。

金峰から坂根方面に向か

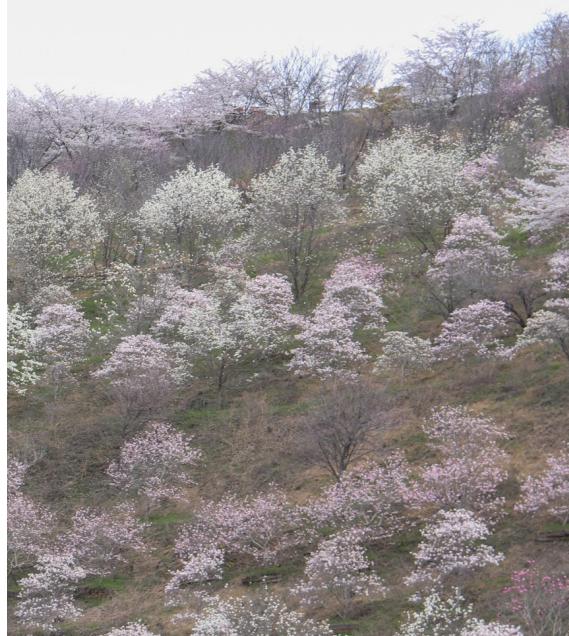
あちこちで田植えが始まっていますね。今月号の「えーる！」では、5月末まで開催中の里山オープンガーデンを追いかけました。まずは、里山オープンガーデンの中でも、たくさん桜に彩られた庭をご紹介します。

桜の庭三選

うと現れる「坂根の里・道端の芝桜」の光景は、足元に広がる芝桜のピンクと菜の花の黄色、見上げると桜の薄い桃色が広がり、それまでの緑とはまったく違う世界を作り出しています。

た。周囲には菜の花の香りも満ちて、花だけではなく匂いも楽しむことができます。桜の色と、同時に咲く菜の花の香りに、春を感じたよ。

No. 21 「鹿野興産の桜丘」



No. 20 「坂根の里・道端の芝桜」





わたしのイチオシ! 風の吹き抜ける庭たち

桜の季節が終わり、気持ち良い風が吹く季節になりました。里山オープンガーデンに参加した26カ所の庭の中から、心地よい風を感じた庭をご紹介します。

No. 24 「山田ガーデン」

斜面に咲くネモフィラ、高台に設置されたベンチと、そこには立つ木。ベンチに座って眺める絶景は、ぜひ現地で楽しんでください。

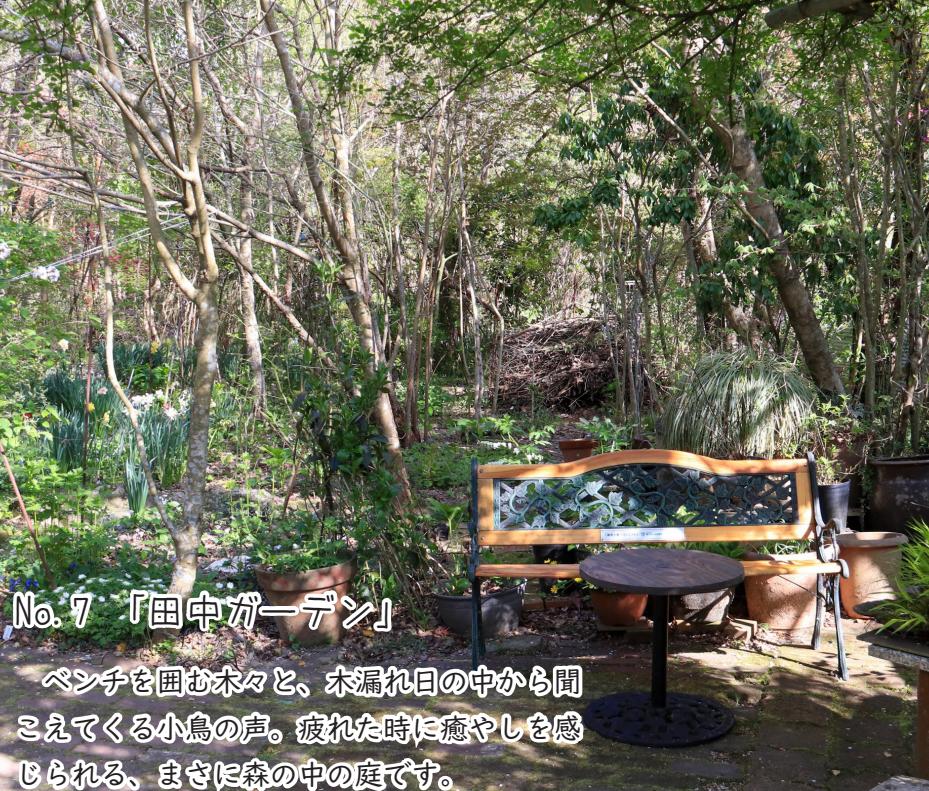


No. 6 「林ガーデン」

コンパクトにまとまった庭と、存在感のある巨大な石。ウッドデッキの上に立つと、吹き抜ける春の風を感じることができます。



No. 7 「田中ガーデン」



No. 7 「田中ガーデン」

ベンチを囲む木々と、木漏れ日の中から聞こえてくる小鳥の声。疲れた時に癒やしを感じられる、まさに森の中の庭です。

あなたの“お気に入り”も、きっと見つかる

紙面の都合上全ての庭を紹介することはできませんが、参加した庭はどれも個性派揃い。「鹿野の風」プロジェクトのホームページや、案内所「ふる里マルシェかの」(☎ 0834-51-0091)で、庭の情報が手に入れますよ。

まちづくり応援団えーるのホームページでも、参加した庭をご紹介しています。

えーる！

۰۱.۶۸ ۲۰۲۱.۶

雨と、緑と、鏡池

梅 雨入りして、雨の日
も多くなってきました
たね。今月の「えーる！」
では、漢陽寺に伝わる言
い伝えに関係する史跡を
追いかけました。

山門前の「鏡池」

漢陽寺の山門前に広がる鏡池には、こんな言い伝えがあるんです。

漢陽寺の開祖・用堂明機禪師が唐の国に留学していた時、ひどい風波に遭われました。禅師が一心に念じ続けていると、聖観音さまが現れ、禅師を救ってくださいました。難を逃れた禅師は、愛用する八葉の鏡を空高く投げ、鏡の落ちた場所に聖観音さまを安置しようと心に決めたそうです。

帰國後、禅師は各地を旅して、鹿野にたどり着きました。そして、お寺を作ることになり、鍬入れをしたところ、なんとあの八葉の鏡が出てきたんですよ。

鏡の出でた場所には池が作られ、その池が鏡池と呼ばれるようになつたんですよ。

直径約3メートルの小さな池には、そんな言い伝えがあつたんですね。

いつも通り過ぎてしまふまぶしいモミジの紅葉。鮮やかな緑色に、春が深まってきたことを感じました。秋には真っ赤に染まるんだろうな、と思うと、数カ月先が楽しみになります。

池のコイたちも、こちらに気付くと口を開けながら近づいてきて、水面がバシャバシャと賑やかでしたよ。



池には絶えず水が流れ込み、たくさんのかいが泳いでいます。



鏡池の中には、用堂明機禪師の石碑が建っています。



“災いのない穏やかな世の中に”……祈りを込めて

消災石の言い伝え

師はある時、夜中に眠っている弟子たちを起こして、そう叫んだそうです。徑山寺とは、禅師がお世話を水蒸気が立ち上ったそうです。

そこから3年、唐の国からやつて来た2人の僧侶が、「3年前、徑山寺が火災に遭った時、お助けいただきありがとうございました」とお礼にやつてきて、弟子たちは

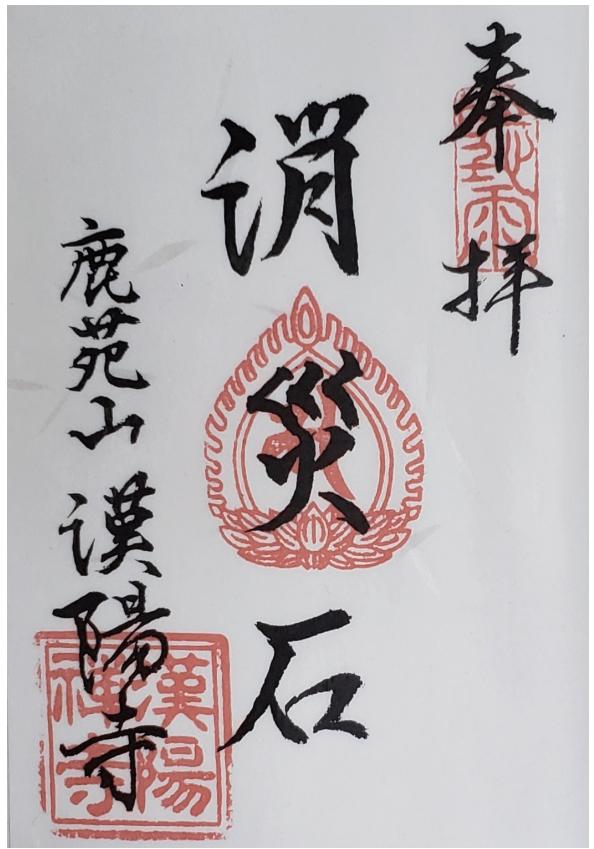
徑 山寺が焼けている、早く
この石に水をかけなさい

皆ひっくり仰天したそうです。
火災を消した石として伝承の残る消災石は、曲水の庭を囲む壝の外側に安置されています。長さ一メートル、厚さは80センチメートルにもなる巨大な石で、そばには石の名を刻んだ標柱も立っていますよ。

山寺が焼けている、早くこの石に水をかけなさい

……漢陽寺の開祖・用堂明機禪師はある時、夜中に眠っている弟子たちを起こしてそう叫んだそうです。径山寺とは、禅師がお世話をになつていた唐の国のお寺で、い

まさに新型コロナウイルスという災いが広がっている今の世の中。消災石の名前が書かれ、コロナ収束を願った御朱印を見つけました。不安が続き、我慢を強いられる毎日ですが、災いが消える日が来ることを信じたいですね。



みんなで造った「鹿野の宝」 ～漢陽寺庭園が国の登録記念物に～

日本にない庭を 鹿野の人と共に

前住職が重森氏に作庭の相談をした時、重森氏は潮音洞から流れる水を見つめて「今まで日本にない庭を造りたい」と話されたそうです。

こうして造られた曲水の庭は、平安・鎌倉時代に多く造られた曲水の様式を、室町時代に流行した枯山水の中に通すといふ、他に類を見ない形として完成しました。

調査・設計から5年を費やして造られた6庭園には、作庭の材料にもこだわりが見られます。普通は業者の石置き場から材料を選びますが、漢陽

寺の庭は現地で石を調達して造られました。

は、重森氏にしてはとても珍しいことだったのだ



この6庭園が、文化財の一項である国の登録記念物として登録予定となりました。県内では4例目になる登録で、全国的に見ても、とても貴重なことです。

曲

水の庭をはじめとし
た漢陽寺の6庭園。
著名な作庭家である重森
三玲氏によって造られた
この6庭園は、平安時代
から昭和時代まで、さまざま
な様式で造られた庭たちです。

緒に庭を造るということ

は、重森氏にしてはとても珍しいことだったのだ
とか。これも漢陽寺庭園
が重森氏の他の庭と違う
ところなんです。

いたそうですが、漢陽寺の作庭中は、寺内で寝泊りしていました。作庭の合間をぬつて、鹿野の人

に生け花などさまざまなことを教えられ、さながら「重森塾」といった様相だったそうです。

まつたこの庭を、これからも大事にしていきたい

性化してほしいです」と
話してくださいました。

重森氏と鹿野の力が集

ら、「重森塾」といった様相だったそうです。

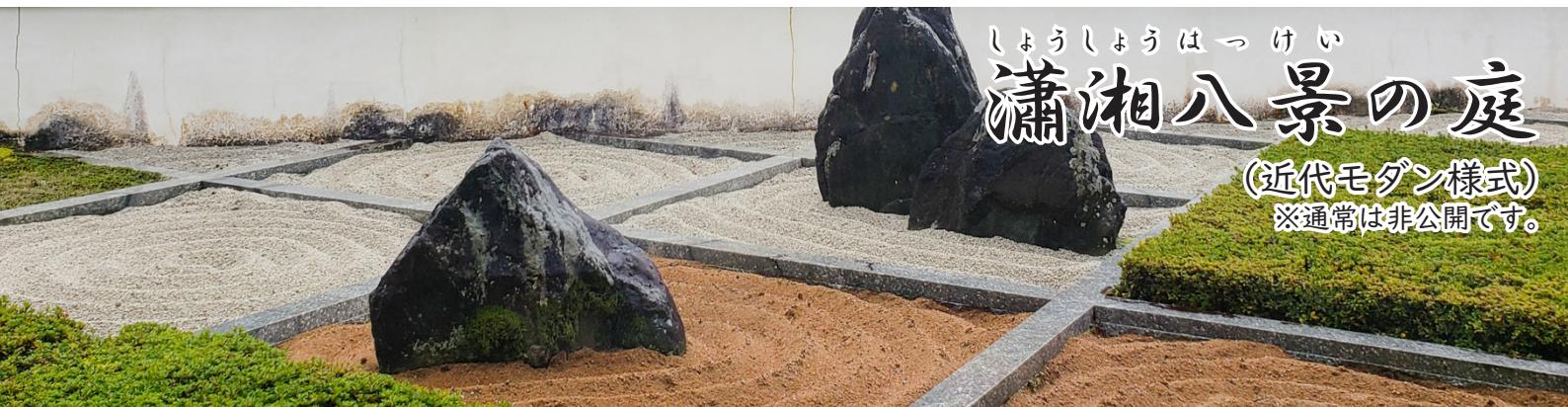
こうして地元の人と一

くして地元の人と一緒に庭を造るということ



5つの時代の庭たち

曲水の庭と合わせ、登録記念物として登録予定の庭園たち。平安時代から昭和の近代モダン様式までの5時代の様式を、漢陽寺で見ることができます。



鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2021.8
Vol.70

合言葉は「かくれが」

鹿野を元気にし、鹿野のことを、もっと知つてもらいたい……そんな思いで、異世代交流子育てサロング assis の岡崎さんと数井さんが呼びかけ、7月11日に実施された「かくれがマルシェ in 鹿野」。

鹿野のあちこちを巡りながら、お店と一緒に鹿野の自然を楽しんでほしいといふ思いから、一ヵ所の会場ではなく、鹿野の各地6カ所で行われました。各店舗では、合言葉を伝えると限定商品を購入できるなど、楽しい仕掛けも準備されていました。各店舗毎月開催予定のかくれがマルシェ。お店を巡る時、一緒に鹿野の自然も楽しんでほしい。いつ来ても何かをやっている鹿野をめざしてがんばります」マルシェについて岡崎さんはこう話してくれました。

「かくれがマルシェ」しませんか

かくれがマルシェの参加者は随時募集中です。参加者はポスターでも確認できますよ。
問合せ 岡崎さん 090-7770-7038
数井さん 090-9509-4459



合言葉を伝えるとパンが1割安になりました。特典を利用して、丸太食パン1本を購入。大きく厚切りにして焼いたパンは、とてもおいしかったです。

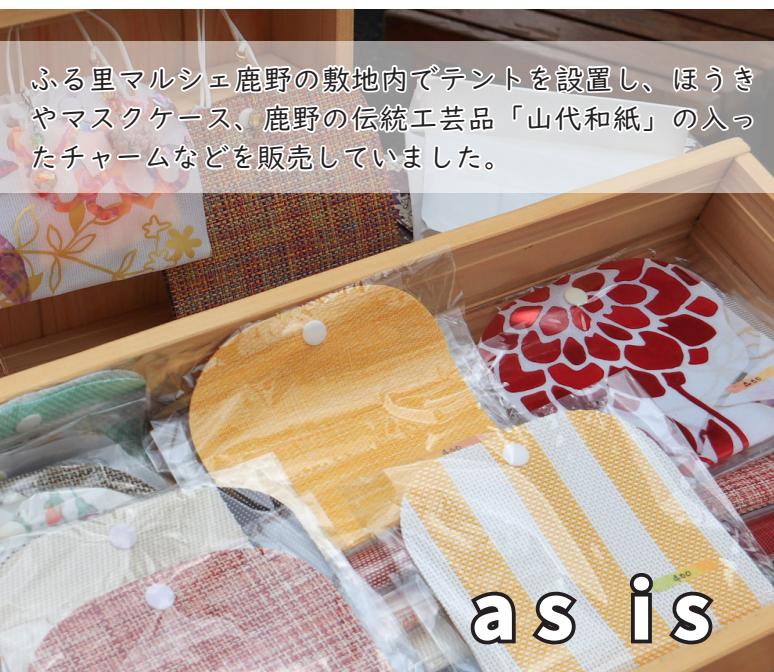


限定商品として提供されていたのは白桃パフェ。清流そばのテーブルで水音と風を感じながら食べると、とっても“涼”を感じることができました。



参 加 店 舗 を

ふる里マルシェ鹿野の敷地内でテントを設置し、ほうきやマスクケース、鹿野の伝統工芸品「山代和紙」の入ったチャームなどを販売していました。



巡 つ て み ま し た

革小物が並ぶ店頭。限定商品は、鮮やかな青に染められたシューズアクセサリでした。靴だけでなく、鞄などのワンポイントにも良さそうです。



販売されていたパンや焼き菓子は、取材に行ったときは、ほとんど売り切れ状態！ オリジナルブランド「鹿音」のアクセサリもきれいで素敵でした♪



ビスポートシューズ
N.Fukuyama

copain

えーる!

2021.9
Vol.71

五感で楽しむ癒しの時間 ル・シェール ～le ciel～

学生時代からボブリに興味があつたという和田さんは、ハーブを使ったフットバスやハーブ蒸し、血流やリンパを流す施術やツボ療法などを行っています。施術を行つていまます。施術を行つてみると、ほとんどの人は気持ち良くて眠つているのだとか……どんな心地よさなのか、体験してみたくなり自然由来だつたり、いわゆるオーガニックな

素材を利用していきます。和田さん自身アレルギーを持つていて、体质的に使用できないオイルなどもあるそうです。お客様も自分も安心して使えるものはなんだろう……と考えながら、店で使用するものを選んでいるそ

うですよ。

「鹿野に住んでいて、どこか行く場所がないかな、」
「サロンを訪れるお客さんは、鹿野の人や、鹿野にゆかりのある人が中心になっています。」
「外には素敵な庭が広がり、施術後にハーブティーも楽しめます。ハーブの香りや施術だけではなく、まさに五感で癒しを感じることができます。」
和田さん。



天 空という意味のフランス語の名前を持つ「le ciel」というサロンが小泉にあるのをご存じですか？

ハーブなどを使って全身の施術をしてくれるこのサロンの店主は、ハーブコーディネーターの資格を持つ和田理香さんです。生まれ育った家をサロンに改装し、鹿野でサロンを営む思いについてうかがつてみました。

和田さんが、女性が好みメニューを中心としたこのサロンを開業したのは平成22年。通信講座を利用しセラピストの資格を取得し、3年の準備期間を経て開業に至りました。

「サロンでは植物性だから……どんな心地よさなのか、体験してみたくなってきますね。」
サロンでは植物性だつたり自然由来だつたり、いわゆるオーガニックな

「鹿野に住んでいて、どこか行く場所がないかな、」
「外には素敵な庭が広がり、施術後にハーブティーも楽しめます。ハーブの香りや施術だけでなく、まさに五感で癒しを感じることができます。」
和田さん。



笑顔に

\ Hurray! /

えーる!

「ワクワク」 楽しむモデル業

和田 理香 サン

「le ciel」を営む和田さんですが、その本業はモデルさん。モデル業の本拠は徳山に置きながら、サロンもあり週5回は鹿野に帰っているという和田さんの情熱についてもお聞きしてみました。

和田さんがモデルになりたいと思ったのは、小學生の頃でした。背も高く、手足も長かった和田さんは、それを生かせるモデルをめざしてみようと思ったそうです。

広島の学校に進学していた頃からモデルの勧誘があつたそうです。23歳頃から下積みを開始し、プロとしてマネージャーにつきになったのは35歳の頃。プロになるまで、とても長い道のりを努力されています。

現在もコロナ禍の中、大変厳しい状況でモデル業を続けています。「モデルという仕事柄、体型を維持し続けるため、そんなに口にすることができないことがつらいですね」と、日々の

「le ciel」を営む和田さんですが、その本業はモデルさん。モデル業の本拠は、鹿野に置きながら、サロンもあり週5回は鹿野に帰っているという和田さんの情熱についてもお聞きしてみました。

和田さんがモデルになりたいと思ったのは、小學生の頃でした。背も高く、手足も長かった和田さんは、それを生かせるモデルをめざしてみようと思ったそうです。

広島の学校に進学していた頃からモデルの勧誘があつたそうです。23歳頃から下積みを開始し、プロとしてマネージャーにつきになったのは35歳の頃。プロになるまで、とても長い道のりを努力されています。

現在もコロナ禍の中、大変厳しい状況でモデル業を続けています。

「モデルといふ仕事柄、体型を維持し続けるため、そんなに口にすることができないんですね」と、日々の苦難にも負けずに、モデルとしてもハーブコメディネーターとしても活動する和田さんの笑顔にエールを送りたいと思ひます。

「モデル業は、できることがたくさんあります。90歳ぐらいまで続けたい」と思っています。年齢を重ねた後は、たとえば老人ホームのモデルとか、今以上にいろいろなものに挑戦してみたいと思つています」と、まさに生涯現役、という言葉があつてはまるような思いを語つてくださった和田さん。



ボディケアサロン le ciel

営業時間 10時～18時（定休日…月・火曜日）

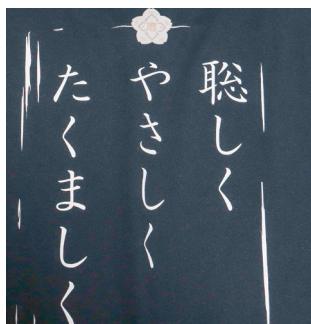
※完全予約制です。

問合せ ☎ 080-6320-1256

えーる!

2021.10
Vol.72

キックオフ! 鹿野小創立150周年記念事業



や地域の皆さんに事業のことをより知つてもらうためキックオフミーティングが開催されました。スタッフの皆さんはお揃いのTシャツを着込み、その背中には鹿野小の校章と一緒に「聴しくやさしくたくましく」と

目前に迫つたこの大きな節目を記念し、有志の皆さんにより創立150周年記念事業実行委員会が設立されました。記念誌発行や記念イベントの実施、環境整備など、さまざまな事業が行われていく予定となっています。

8月21日には、同窓生

いう校訓がプリントされていました。校章も、校訓も、在校していた当時はなんとも思つていませんでしたが、こうしてO Bとなり、改めて見てみたとき、なんだか懐かしいような、誇らしいよう

な、不思議な気分になります。コロナ対策のために間隔を空けて設置された席には70人を超える人たちが集まり、インターネットを利用したオンラインで参加する人もいて、たくさん的人に注目されました。

一時間ほどの短い時間

ながら大盛況のうちに幕を閉じたキックオフミーティング。150周年の節目に向けて今まさにスタートを切つた、その瞬間に立ち会うことができました。

皆さんは、鹿野小学校がいつ創立されたのか、ご存じでしょうか？鹿野小学校が創立されたのは、なんと明治6年3月1日。令和5年3月で、150周年という大きな節目を迎えようとしています。



●昭和15年、鹿野尋常高等小学校に改称した頃の校舎



鹿野小学校 創立からの歴史



改築や移設を繰り返しながら
今に至る、その歴史について
調べてみました。

●明治18年に新築された校舎



在りし日の思い出 木製の床と始業前の放送

明治6年に創立した鹿野小学校。当初、二所山田神社の西側付近に建っていた旧藩紙見取所を校舎にあてたそうです。その後、明治8～14年にかけて、鹿野の各地に分校が造られました。大正2年に尋常小学校として創立した大潮小や、昭和36年に独立した渋川小なども、その源流にはこの分校があるんですよ。明治18年になると市頭に右のような校舎が完成します。その後、昭和13～15年に薬師原へ移転していきます。

戦後、昭和37～39年に新校舎が造られました。その後、平成を迎え、さらに改築されて、現在の校舎になっています。

私が在校していたのは平成初期の頃。当時の校舎は現校舎の、おそらく一つ前。右の写真のような建物だったかと思います。その建物の中で、一番印象深いものは、木製の床でした。皆が走るとバタバタッと大きな音を立てる床は、掃除時間が毎日雑巾がけで磨かれ続け、水を吸うとつやつやとしていました。

また、毎朝の始業前には校歌や町歌が流れる時間があります。町歌も聞くことができたまでは、合併で鹿野町がなくなり、その時間は静かにしていました。今も「山並みはるかなればなりませんでした。

木製の床には隙間も多く、消しゴムや鉛筆を落としてしまったこともあったな、と思いつ出されます。



アサギマダラ、舞う

秋も深まり、朝晩の寒さも強まってきたましたね。11月の「えーる！」は、鹿野の秋を彩るアサギマダラが乱舞する金峰地区をご紹介します。

10月10日、金峰地区の約6キロメートルを散策するウォーキングイベント「金峰を歩こう！」が行われました。

秋晴れの中、金峰の山道を歩くと、運動不足のせいもあって息は絶え絶え、服は汗だく。着替えを持つてくるべきだったと思うほどでした。

しかし、金峰の何気ない風景……山道の途中で見た青空、冷たい湧き水、菅藪の石塔群、古い家々の様子……そういうものたちを見ていると、長い距離を歩くことに不安をだつた気持ちが、スッキリと晴れていくのを感じました。とても疲れましたが、参加してよかったです

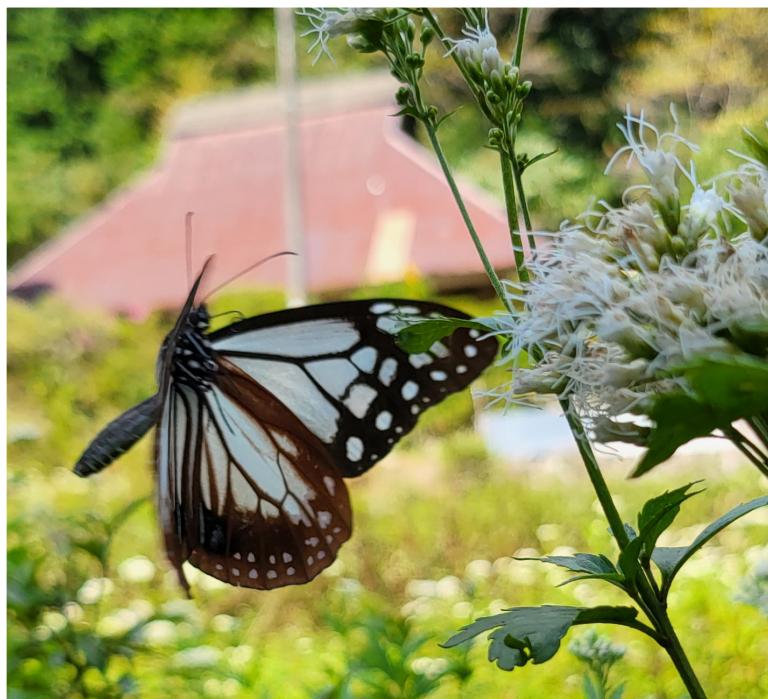
などと思いました。

そして、昼休憩を兼ねてたどり着いたのは、4月に行われた里山オーブンガーデンの時にも訪れた場所です。一面に咲く白いフジバカマに、何十というアサギマダラが舞い踊る様子は「すばらし

い！」の一言に尽きます。

遠くは台湾からも飛んでくるというアサギマダラは、旅するチョウとも言われています。きれいな浅葱色の羽をひらひらさせながら舞う姿には、参加者の皆さんも大感激など思いました。

参加者の皆さんも大感激でカメラを向けていましたよ。一時間半の見学時間が、最初はちょっと長いかなと思つていましたが、気が付けば出発の時間になっていました。アサギマダラを眺めていた時間は、あつという間に過ぎていきました。



今

回、金峰地区の中
を、自動車から降

感じました。
他にもたくさん
の魅力を見つける
ことができま
した。

歩いて知る金峰の魅力

りて徒歩で散策する機会に恵みました。そのおかげで、自動車に乗つては気付けなかつたものを、たくさん見つけることができました。

秋晴れの当日は、夏に比べればずいぶん穏やかとはいへ、帽子がないことを悔やむ日差しでした。吹き抜ける風は肌寒ささえ感じるほどで、すっかり秋になつていることを感じました。

今の位置になるまで2度の遷宮を経たという金峰神社を左手に見ながら、山道へと歩を進めます。うつそうと茂る木々の間に伸びる細い道を歩いていた時、参加者の人と話していると、こんな言葉が聞けました。

「山道なのに、下草が刈られて歩きやすいね」

不思議に思つてお話をうかがうと、本イベントの主催者である「防長の吉野をつくる会」の尾崎さんが、この日のために整備されたのだと。険しい山道の整備を行い、参加者を迎えてくださったことを、とても嬉しく

いました。

菅原の石塔群も訪れることができました。写真の石塔は宝篋印塔といつて、豪族の墓として建立されたのですが、もともと法華經の經典を收める供養塔だつたとか。他にも石塔が並ぶこの場所は、いつか訪れようと思つていた場所。山道を歩き、汗をかきながらたどり着いたからこそ、感動もひとしおでした。

今回のイベントに参加し、ゆっくり歩いたことで、アサギマグラだけでない「金峰」を、たくさん知ることができたよ



えーる!

2021.12
Vol.74

“こころのふるさと” 公民館に感謝の気持ち



●藤井市長と実行委員会の有國さん、劇団「わ」関係者の皆さん

昭和42年5月に建てられた旧鹿野公民館が54年間の歴史に幕を下ろすとしています。

今月号の「えーる!」では、解体後の跡地に鹿野総合支所を移転する方針が示された旧鹿野公民館に、感謝の気持ちを込めて行われた催し「ありがとうございました公民館」について紹介します。

有志による実行委員会によつて、11月14日に行われたこの催し。午前中には、衣類や調理用具などを販売するもつたいなバザー、公民館で保管されていた古道具たちのオークション、館外では野菜販売なども行われました。

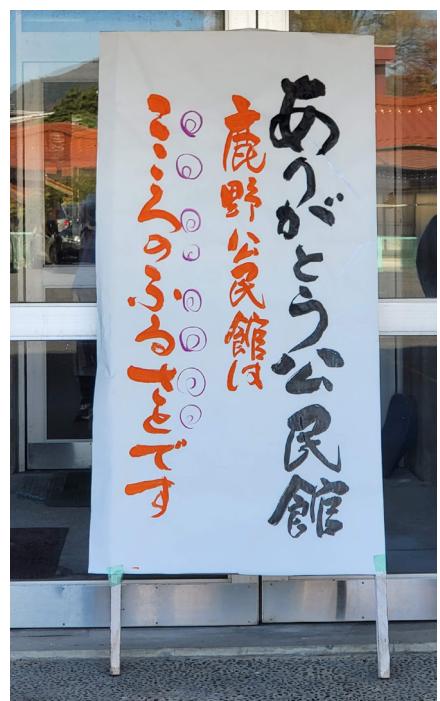
せっかくなので、わたしもオークションに参加し、木製の小物入れを落札しました。家に帰つて文具入れとして活用させてもらっています。こうして掘り出し物を前にすると、なんだかワクワクしてきますね。

午後からは、鹿野町商工会さんが制作したビデオの上映がありました。平成初期の鹿野の様子を見ていると、子どもの頃の記憶がよみがえつ

て「こんなこともあつたなあ」と懐かしさを感じました。公民館長として勤務されていた福本勝さんからは、岩崎家の文化財を公民館の2階に広げて調査をしたことなど、公民館との思い出を語っていました。

その後、藤井市長からのご挨拶をいたいた後、イベントの最後を飾つたのは、今年で20周年を迎えた劇団「わ」による公演「がんばろうよ！鹿野の里」です。

劇中では鹿野のいろいろな催しや、劇団「わ」初公演で登場した高原列車、私財を投じて潮音洞を掘り抜いた岩崎想左衛門重友の逸話などが紹介されました。鹿野で新しいイベントを始めたいという、タイトル通り鹿野



●昭和42年5月、新築の公民館
(広報「かの」第164号より)



公民館の思い出

成人式、そして「えーる」の活動と共に



○令和3年11月の公民館

わたしはこの新館で、下の写真にあるように成人式のお祝いをしていただきました。当時、県外の大学に通学していたためになかなか同級生と会う機会もありませんでしたが、久しぶりに集まって、ゆっくり語らう機会を得ることができました。編集のため久しぶりに写真を見ると、みんな若いなあ、などと感じてしまいます。

平成21年からまちづくり応援団えーるとしての活動を始め、16回の公演のほとんどを2階の講堂で行つた劇団「わ」の取材をした時、久しぶりに講堂に入る機会があり

驚いたのは、ここで結婚式を挙げたという話でした。今では公民館で結婚式というのは想像しがたいものですが、公民館の思い出に結婚式のことを挙げる人はたくさんいらっしゃいました。映画上映なども行われ、当時の鹿野の人々にとって、とても身近だったであろう旧鹿野公民館は、昭和53年3月に新館部分が増築され、今のような姿になりました。

わたしはこの新館で、下の写真にあるように成人式のお祝いをしていただきました。当時、県外の大学に通学していたためになかなか同級生と会う機会もありませんでしたが、久しぶりに集まって、ゆっくり語らう機会を得ることができました。編集のため久しぶりに写真を見ると、みんな若いなあ、などと感じてしまいます。



普段から出入りするような場所ではありませんが、いつまでもあり続けてくれるだろうと思つていて旧鹿野公民館。その解体にはとても寂しい気持ちを感じます。

この敷地に新しく建つであろう鹿野総合支所が、これからも鹿野の人たちと共にあって、新しい鹿野の中核になってくれればと思います。

また。重い扉を開けて入る、暗幕のかかる室内は、いつ訪れてもワクワク。まさに映画館で上映を待つときのような気持ちにさせてくれていたものです。